



# 〔特集〕地域おこし協力隊活動報告

# 完・協力隊

これからも、よろしく

地域おこし協力隊とは、地域外の人材を新たな担い手として受け入れ、その定住と地域協力活動を通じて地域の維持・強化を図る制度のこと。竜王町では平成27年に「地域おこし協力隊」として委嘱した隊員2名が竜王町へ移り住み、まちの活性化に向けて、さまざまな取り組みを行ってきました。これまでの隊員たちの活動の様子は町広報紙でも毎月お伝えしてきましたが、今月号では、任期終了を目前に控えた3年間の取り組みの足跡をたどりながら、「その後」の思いをうかがいます。



## 中村

今の自分にできることで、社会に何が貢献できるんだろう…。そう模索した時期、漠然と「地域おこし」をしてみたいと思いついたのが数年前。高校時代に弓道を習い始めたことを機に、弓道の歴史に興味を持ち、以前から竜王町が弓道発祥の地であったことを知っていたこともあり、ネットを通じて竜王町の「協力隊募集」記事を発見し、そのまま導かれるように平成27年に竜王町の地にたどり着きました。協力隊委嘱後は、千年にまたがる弓との関わりを持つこの町で、特技の一つである弓道を生かした「弓道で町おこし」をテーマに取り組んできました。1年目は移住地となる田中地区の皆さんに受け入れてもらえるよう、いろいろな地域行事に参加し、自分を知ってもらう努力をしつつ、協力隊として地域観光の応援や地域ボランティアなどの地域協力活動を行ってきました。とにかく活動が始まった途端、これまでの生活と打って変わって人と人との関わりやつながりに多く触れました。特に、2年目の「ひだまり学舎」の古民家改修では、私にとって人生の新たな扉が開きかけにもなった出会いと発見がありました。だからこそ、今あらためて思うのは竜王町に来て本当に良かったということです。協力隊卒業後も、もちろん竜王町に定住することを決めてい

## 木田

ます。それは、竜王町での活動が近い将来、自分が生きていくためのよりどころになるという可能性を大いに秘めていると感じたからです。私の夢は竜王町に弓道場をつくること。弓道で町おこしも古民家改修も、はじまりは弱々しいアイデアにしか過ぎなかったのを覚えています。しかし、いろいろな場所で繰り返し言い続けることで、徐々に現実の姿形を帯びていきました。今まで自分が続けてきたことのさらなる飛躍の中で、今は起業する準備もしながら、未来を切り開いている実感を覚えています。町おこしはボランティア的な要素が強いものですが、一方で経済性を考慮する必要もあり、町おこしは持続可能な発展が成功につながるように思います。これからも竜王町という地域の中で生きていくこと、新しい挑戦に不安も希望もありますが、都会には都会の、地方には地方の新しい時代の波にうまく乗り、その中で精一杯、竜王町民として、皆さんと共に暮らしを営んでいきたいと思えます。

## 初、心のこもった丁寧な暮らしに憧れていた私は、「農ある暮らし」をテーマに活動を開始しました。「農」といっても私が注目したのは、みそ作り、糸紡ぎや編み物などの手仕事のこと、実際に食べるものや着るものを一から作ることの豊かさに触れたとき、竜王の豊かな自然に囲まれた暮らしの中なら「できる！」と、確信を持ちました。そんな中、私は妊娠と出産を経て、あらためて暮らしの本質を考える機会を得ました。娘は日常生活の小さな積み重ねの中で日々成長し、暮らしそのものが人の心も体も形作っていくものなのだと思付かせてくれました。社会や生活の変化により、昔のように全てを手作りすることは本当に難しいことですが、そんな中でも小さかかわらず仲間がいればきつとできると、この3年間の活動の中で実感しています。その証に、多くの皆さんにご協力いただき、立ち上げることができた林地区の「ひだまり学舎」では、今日もたくさんの方の学びと交流が生まれています。今後は「暮らしをつむぐ育て組」ひだまり学舎」という屋号で「暮らし」を大切にしながら、地域の中で子どもたちを育む仕組みを作っていきたいと思っています。



◀ 中村 匡希 age 33 (田中) なかむら・まさき

京都市から移住。高校時代に弓道をはじめ、竜王町が弓道発祥の地と知り興味を持つ。隊員委嘱後も弓道をテーマにした町おこしで地域活性化を図る取り組みを行う。趣味は興味を持ったことは何でも調べることに、特技は英語。

▶ 木田 桃子 age 29 (林) きだ・ももこ

15歳まで海外で過ごす。大学時代、京都府丹後市や福井県美浜町で過疎地域の現場に入って地域活性化について学び、卒業後は三重県の「伊賀の里モクモク手づくりファーム」に勤務。日本特有の文化に興味を持つ。

## 地域おこし協力隊卒業報告会

地域おこし協力隊の中村隊員と木田隊員の3年間の任期終了に伴い、これまでの総括として報告会を行います。この機会に交流も兼ねて地域の皆さんとの意見交換も行いますので、どうぞ、気軽にお越しください。

お子さん連れでもOK  
お茶とおやつもあります

3月24日 13:00~16:00  
会場・竜王町防災センター 2階  
入場無料 申込不要

卒業後も、私たちは  
竜王町で暮らし続けます。  
今後もどうぞ、  
よろしくお願いします。



弓道が好きだから



人との出会いが  
宝ものだから



母だから、妻だから、  
地域の一員だから



竜王町が好きだから

私たちの、「だから」「ココロ」にいる。



月替わりで講座や教室などの学びを通じて地域間交流を図ります。①



約1年にも及ぶ古民家  
改修作業には多くの人の  
手を借り完成。その  
名も「ひだまり学舎」

初年度は役場  
(観光協会)を拠点に活動を開始

2018年	2017年	2016年	2015年
3月	3月	1月	4月
11月	11月	11月	11月
10月	10月	10月	10月
5月	5月	8月	8月
4月	4月	6月	6月
		5月	5月
		4月	4月
		2月	

2018年 3月  
地域おこし協力隊卒業報告会  
中村隊員3月末卒業  
木田隊員5月末卒業

11月 「射流し大会」開催①  
ひだまり学舎一周年記念イベント開催  
「竜王タイムトラベラー」  
で弓道体験を実施①

5月 放課後クラブ/ひだまり英会話  
/ひだまり喫茶を開催  
ひだまり学舎①  
家事塾講座/やさしいヨガを開催

4月 ひだまり学舎①  
子育て応援hug組に参加

3月 ひだまり学舎オープン①  
弓道写真展「開催(ひだまり学舎)⑤

8月 「糸紡ぎ体験」開催⑤

7月 「弓道展示会」開催(町立図書館)

6月 「羊の毛刈りと羊毛フェルトボール作  
り体験」開催  
「竜王と弓」戦国から500年の旅」  
講演会開催

5月 「ミニ弓道体験」開催④  
「羊の毛刈りと羊毛フェルトボール作  
り体験」開催

4月 「空き家座談会」開催  
林地区の空き家利活用の相談会

2月 みそ作り・むしろ作り  
手作りの暮らしを体験

1月 「ふるさと竜王夏まつり」に参加③  
地域おこし活動をPR

11月 竜王町空き家プロジェクト始動②  
林地区の古民家を改修

10月 「恋するハロウィンナイト」開催  
まちコン

8月 スーサー・マリー市来町  
通訳・翻訳業務を務める  
木田隊員着任②  
林地区へ移住

6月 「ふるさと竜王夏まつり」に参加③  
地域おこし活動をPR

5月 「ふるさと竜王夏まつり」に参加③  
地域おこし活動をPR

4月 中村隊員着任②  
田中地区へ移住

その他の  
活動は  
卒業報告会  
にて!

竜王を五感で感じる「タイムトラベラー」参加者に弓道の歴史を案内、弓道体験を実施



滋賀竜王工業団地を会場に竜王町で初めての射流し大会を開催。全国的にも久しい開催となる

弓道写真家の奥野浩次さん(写真右)の作品展と、竜王町弓道会を被写体として撮影いただいた写真20枚を展示。また500年にわたる京弓の製法を受け継がれた若手弓師の柴田宗博さん(写真中央)もお越しになりました



「衣食住」をキーワードに道の駅アグリパーク竜王(田園資料館)で手作りのワークショップを開催。町内の福祉施設でも手作り体験を実施しました

高齢者施設や地域行事、イベントの場を借りて弓道体験を実施



「ふるさと竜王夏まつり」で自己紹介を兼ねて地域おこし協力隊をPRするブースを出展

地域の皆さんの声



村田 貞夫さん 岡田 勝己さん

地区の空き家を改修すると知り、初めは遠くで眺めていましたが、気が付くと二人で作業を手伝っていました。みんなが長らく気にかけていた空き家が生まれ変わって、いろいろな人が来ているのを見てると、喜んでもらっているのを感じます。隊員卒業後の二人がこれからどんな活動をしていくのか、見守っていきたいと思います。



吉田 尚子さん (hug組代表)

大阪からUターンしたばかりのころ、ひだまり学舎で木田さんがやりたいことと自分がしたいことが合致し、暮らしや子育てに関する講座などを開いています。家族のライフスタイルに合わせて暮らし方も変化していくので、ここには子どもから大人まで多くの人が集まります。ひだまりでできることはまだまだ無限大だと感じていますので、今後の活動も楽しみにしています。



森岡 栄子さん (竜王町弓道会)

「弓道で町おこし」と聞いて初めは驚きましたが、同時に弓道の楽しさをいろいろな人に知ってもらえると期待も込み上げました。実際、「竜王町弓道会」が関わるイベントも増え、竜王町で射流し大会を開催できたことも全国的に竜王町の名前を広めるきっかけになったと思います。竜王そのものの歴史文化を新しい観光資源として拓ききっかけをつくってくれました。



藤井 了義さん

自治会の行事にも積極的に参加してくれる中村さんは、今では地域の皆さんからも頼られる存在です。お互い歴史の話が好きなのもあって、会えばよく立ち話をして盛り上がります。以前から田中地区の歴史をつづった本を作りたいと思っていましたので、中村さんと一緒につくることを楽しみにしています。